第 435 回「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

# 『思いを超えて進展する人生邂逅』 ～ 風貌、人となりを 直接うかがう ～

2026 年 10 月 17 日 【『2026 年度東京大学ホームカミングデイ 南原繁(1889-1974)セミナー』(会場：東京大学本郷キャンパス法文 1 号館 26 番教室、主催：南原繁研究会) テーマ：『南原繁の戦後の軌跡と未来へのメッセージ ～ 『文化と国家』と『政治哲学序説』の間 ～ 』】に赴いた。 キャンパス内の『銀杏並木フェスタ』では、学生、訪問者で多数の人であった。

第 25 回東京大学ホームカミングデイ『おかえり、つながり、銀杏祭』の冊子では、【南原繁の戦後の著作『文化と国家』(1957 年刊行、増補新装版 2026 年刊行)および『政治哲学序説』(1973 年刊行)を通して、南原繁の戦後の軌跡と未来へのメッセージを読み解きます。】と紹介されていた。

『南原繁セミナー』の司会は、栩木憲一郎氏（南原繁研究会）が担当され、筆者は、2004 年にスタートした南原繁研究会の 3 代目の代表を仰せつかり、今回『開会あいさつ』の機会が与えれた。 【南原繁は『高度な専門知識と幅広い教養』を兼ね備えている人物であり、『視野狭窄にならず、複眼の思考を持ち、教養を深め、時代を読む 『具眼の士』である。『役割意識 & 使命感』の自覚へと導く。『練られた品性 と 綽々たる余裕』は『教育の真髄』である。『ビジョン』は人知・思いを超えて進展することを痛感する日々である。】と語った。

講演 1 川口雄一氏(南原繁研究会)、講演 2 山脇直司先生(東京大学名誉教授) であった。 川口雄一氏は 著書：『南原繁 「戦争」経験の政治学』(北海道大学出版会、2024 年)、山脇直司先生は主著：『ヨーロッパ社会思想史』(東京大学出版会、新装版 2024 年)、『公共哲学とは何か』（ちくま新書 2004 年）、『分断された世界をつなぐ思想』（北海道大学出版会 2024 年）などがある。 クロストーク：川口雄一氏・山脇直司先生、コメント：田渕舜也氏（南原繁研究会）で終了した。

南原繁は、内村鑑三(1861-1930)と新渡戸稲造(1862-1933)から大きな影響を受けた。 1945 年 3 月 10 日の東京大空襲の前日に 法学部長に就任、日本の敗色濃厚となった中で、法学部の有力教授たちと終戦工作を相談し、重臣らと接触した。 そして戦後、東大総長に就任する。教育改革に主導的役割を果して行く。 筆者は、南原繁が東大総長時代の法学部と医学部の学生であった二人の恩師から、南原繁の風貌、人となりを 直接うかがうことが出来た。 これが、『人生邂逅の原点』である。